

工学部の歩み

米沢高等工業学校の誕生

工学部の起源は、1910年(明治43)に設立された米沢高等工業学校にさかのぼります。1902年(明治35)に山形県会議長の^{たかはし}高橋勝兵衛が、1905年(明治38)に県会議長の^{いけだ}池田成章が政府に工業高等学校設立の意見書をそれぞれ提出し、1906年(明治39)には米沢市長ほか11名が要望書を、山形県知事が上申書を政府に提出しました。結果、1910年(明治43)3月26日に勅令によって米沢高等工業学校の設立が決定しました。

初代の校長には現在の福島県会津地方を治めた旧会津藩の出身で東北帝国大学農科大学教授であった^{おおたけ}大竹多氣が就任します。大竹は卒業生に対し「真心をもって事に当たること」「責任を重んじること」「研究心と発明心を養うこと」「人に頼ることを恥じ、自己に打ち勝つことを恥じないこと」「学術技芸の足りないのを憂い、収入の少ないことを憂いたりし

地域とのエピソード

米沢市長らの要望書には、設立理由が以下のように述べられています。「米沢の地は染・織の二業が大いに発達し、これに関する工場も多く、学理と実地を併用する便益がある。学校を設立する場所としても、衛生・風紀・交通いずれも申し分ない。今後民力を発展し海外輸出を発達させるうえでも、東北地方の産業を発展させるためにも、ここ米沢の地に染・織二科の高等工業専門学校を設立してほしい」。米沢の名産である染物・織物は、置賜地域一帯を統治した米沢藩、特に9代藩主の^{うえすぎ}上杉鷹山の主導する藩政改革によって生まれたものでした。米沢高等工業学校の校歌にも、「誉の名君治めし勲」と上杉鷹山の功績が刻まれています。

米沢高等工業学校の設立にあたっては、学校敷地として、米沢市元東馬口労町・元中馬口労町・元西馬

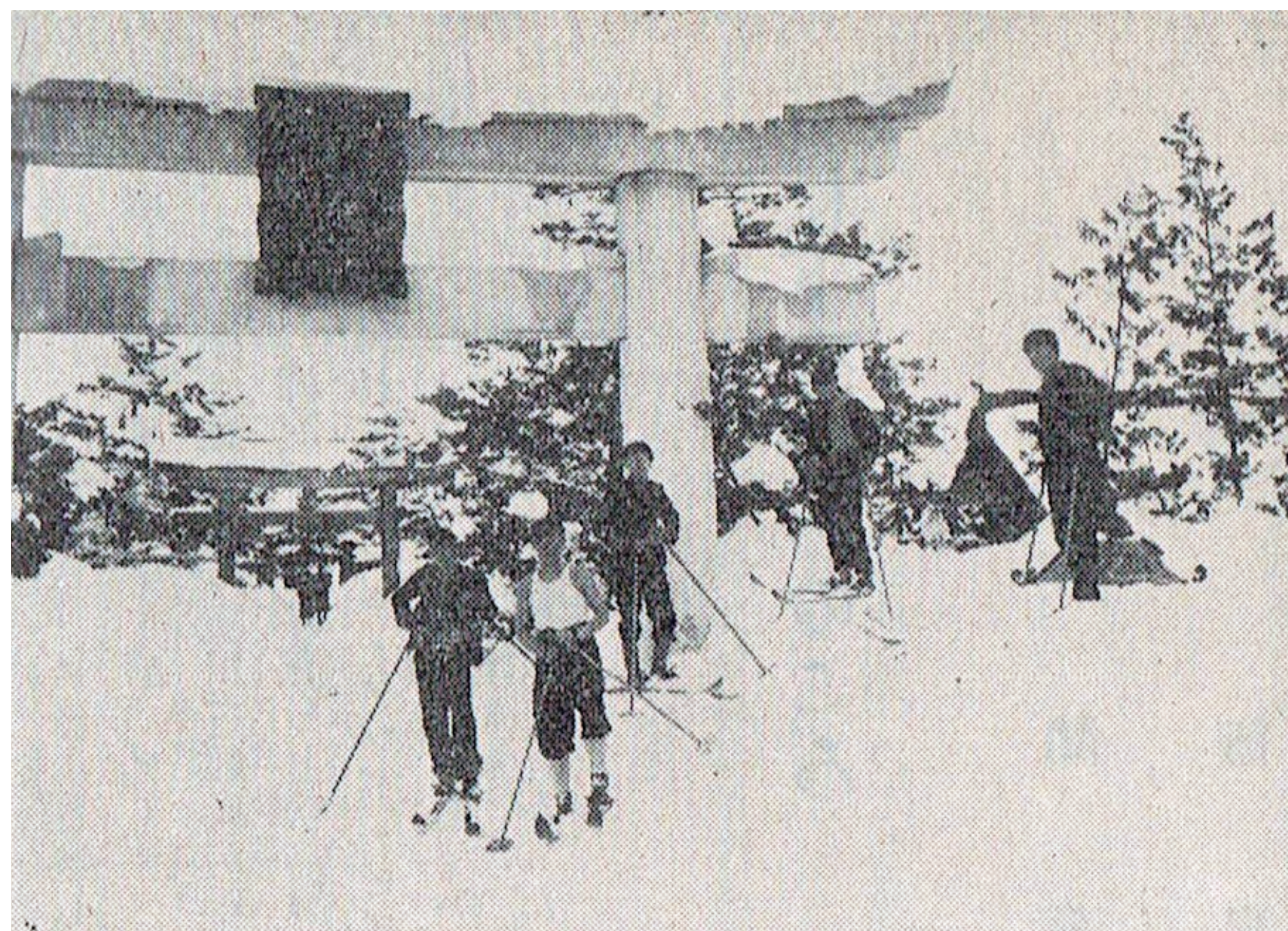


■ 米沢高等工業学校校舎（山形大学附属博物館制作「山形アーカイブ」）

ないこと」を求めました。

米沢高等工業学校は、1944年(昭和19)の制度改変にともない米沢工業専門学校となり、1949年(昭和24)の山形大学創設を機に工学部となります。

口労町の2万坪の土地が米沢市から寄付されました。また、建築費49万円のうち、地元負担分が40万円・政府負担分が9万円でしたが、地元負担分のうち、米沢市から1万円、上杉家から3000円の寄付がありました。残りの分も地元住民の寄付によるものでした。



■ 上杉神社での学生のスキー風景（『山形大学工学部50年史』）

山形アーカイブ実行委員会